



令和4年12月17日（土）13：00～15：00 文化庁日本語教育大会

「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発の現状と展望



# 「日本語教育の参照枠」を活用した 教育モデル開発事業 <生活分野>

小澤 伊久美

（公益社団法人日本語教育学会、国際基督教大学）

# 公益社団法人 日本語教育学会

## 事業の3本柱

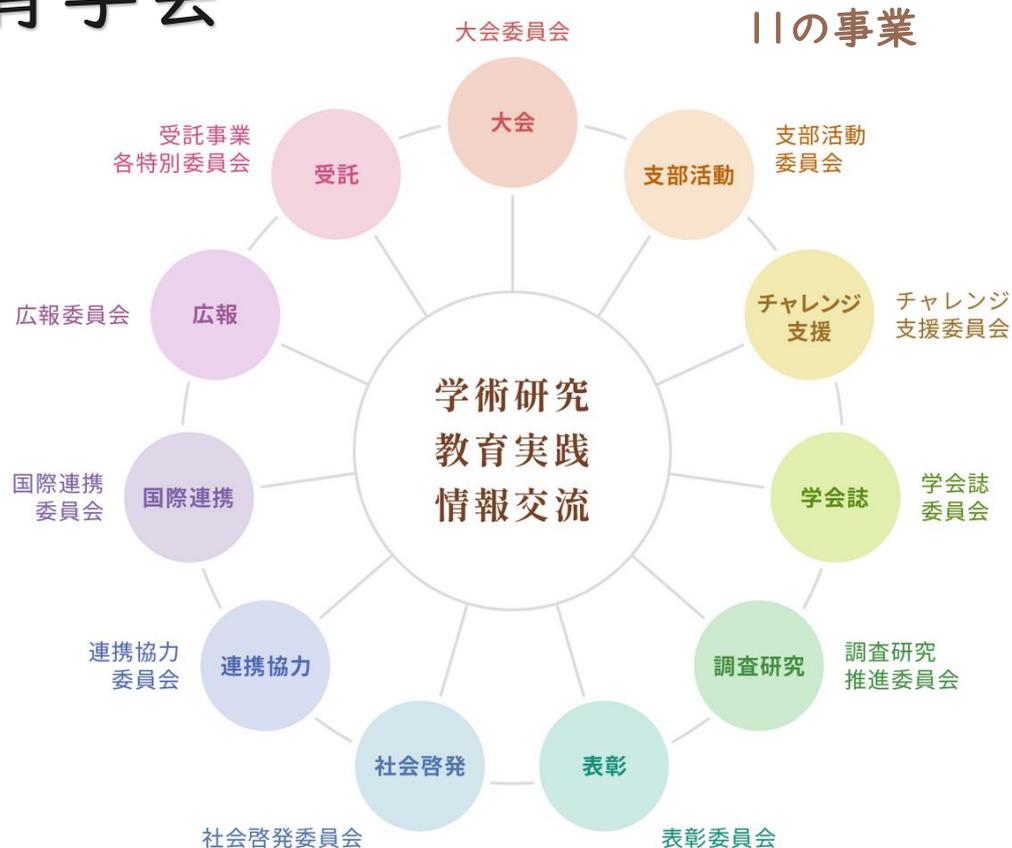
1. 日本語教育の学術研究を促進する
2. 日本語教育の実践を促進する
3. 日本語教育の情報交流を促進する

## 令和4年度 文化庁事業 受託状況

日本語教育人材の研修プログラム普及事業

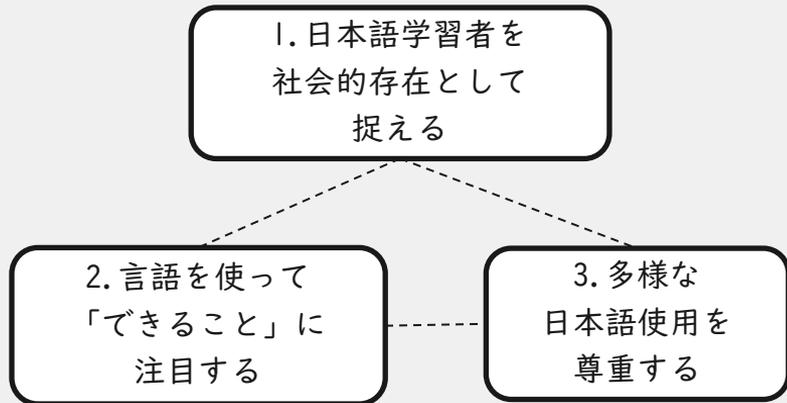
- ・ 児童生徒等【初任】研修
- ・ 日本語教師【中堅】研修

「日本語教育の参照枠」を活用した  
教育モデル開発事業 <生活分野>



# 「日本語教育の参照枠」

## 目指すもの

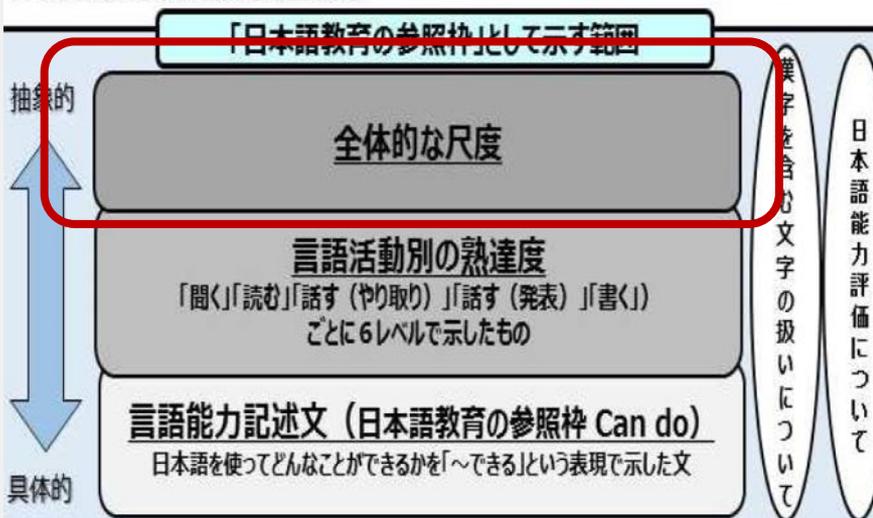


## 期待される効果

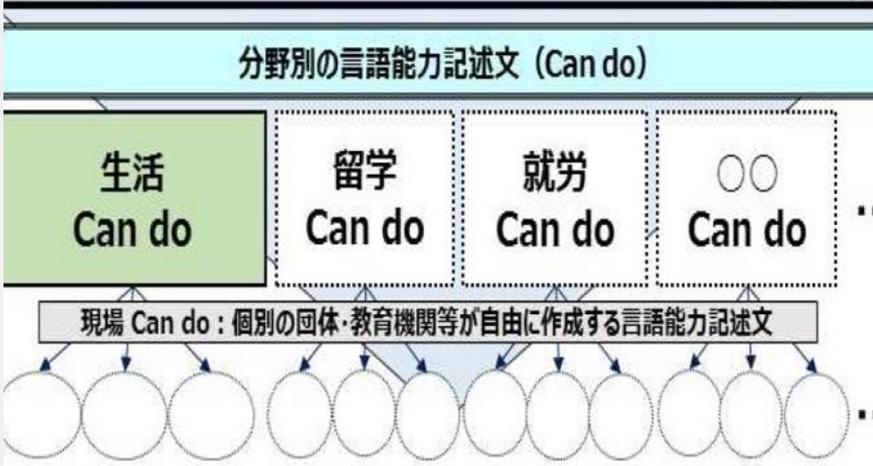
- 国や居住地、教育機関の移動後も適切な日本語教育を受けられる
- 分野別Can doにより具体的かつ効果的な教育・評価が可能に
- 様々な分野で共通の指標に基づく評価が可能になり、試験間の通用性が高まる
- 適切な日本語能力判定の在り方が示され、試験の質が向上

日本語教育の質向上 ➡ 共生社会の実現

# 「日本語教育の参照枠」の全体像



# 「日本語教育の参照枠」 全体像



# 「日本語教育の参照枠」の全体像



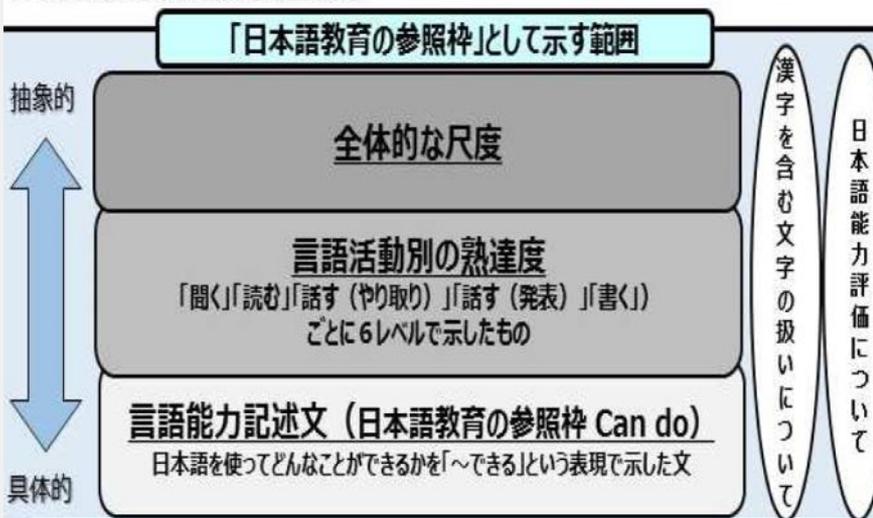
# 「日本語教育の参照枠」 全体像

# 「日本語教育の参照枠」の全体像



# 「日本語教育の参照枠」 全体像

# 「日本語教育の参照枠」の全体像



## 「日本語教育の参照枠」 全体像

文化庁が開発

\*令和4年度 検証作業中

分野別の言語能力記述文 (Can do)

生活  
Can do

留学  
Can do

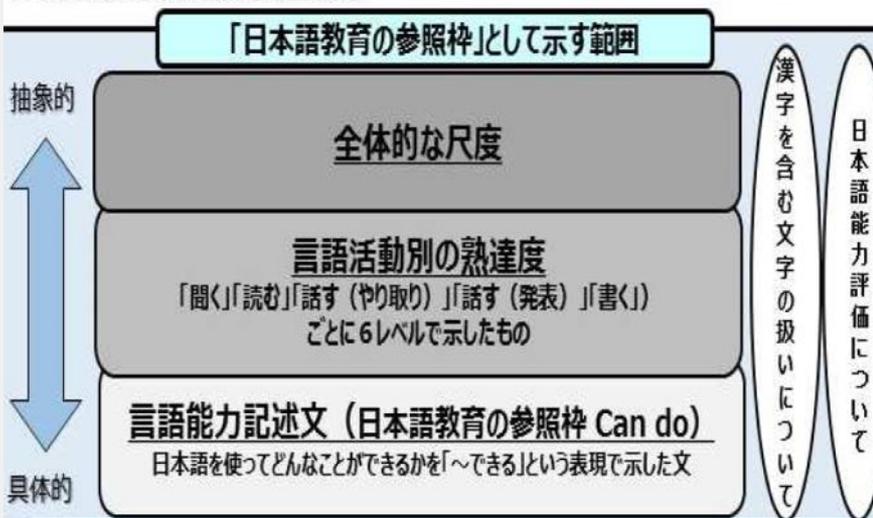
就労  
Can do

〇〇  
Can do

現場 Can do : 個別の団体・教育機関等が自由に作成する言語能力記述文

個別の団体・教育機関等が  
Can doを作成し  
現場で活用する

# 「日本語教育の参照枠」の全体像



## 「日本語教育の参照枠」 全体像

文化庁が開発

\*令和4年度 検証作業中

分野別の言語能力記述文 (Can do)

生活  
Can do

留学  
Can do

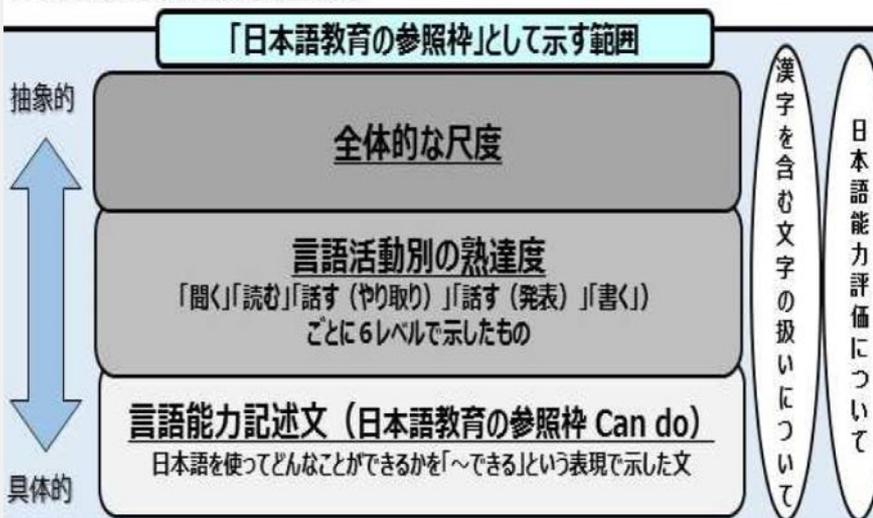
就労  
Can do

〇〇  
Can do

現場 Can do : 個別の団体・教育機関等が自由に作成する言語能力記述文

共通の指標を現場の多様性  
に応じて活用する難しさ

# 「日本語教育の参照枠」の全体像



## 「日本語教育の参照枠」 全体像

日本語教育学会が  
モデル開発を受託

（2年間の事業）

この部分のモデルを開発



# 事業全体の目標



## 活動目標

- ① 共通の指標に基づく教育カリキュラムの開発
- ② 教育実践活動のモデルの構築
- ③ 教育内容に応じた評価手法の開発
- ④ 公開授業・教師研修の開発
- ⑤ 分野別日本語教育の連携モデルの開発

本学会は生活分野について

①～④の開発と試行を行う



# 事業全体の目標

## 成果目標

- ①による教育カリキュラムの質向上
- ②による授業改善
- ③による評価手法の改善
- ④による教育の質向上
- ⑤による分野別日本語教育の連携

## 国民・社会への影響

- ・国内外・分野別日本語教育機関の間の教育の連携による日本語教育の推進
- ・日本のコミュニケーション基盤としての日本語教育の質向上
- ・共生社会の実現に寄与

1



2



3

## 活動目標

- ① 共通の指標に基づく 教育カリキュラムの開発
- ② 教育実践活動のモデルの構築
- ③ 教育内容に応じた 評価手法の開発
- ④ 公開授業・教師研修の開発
- ⑤ 分野別日本語教育の連携モデルの開発

本学会は生活分野について

①～④の開発と試行を行う



事業を進める上で  
求められていること

# 「参照枠」活用コース

## カリキュラム・シラバス開発



### 【3分野共通】

学習時間：400単位時間以上（1単位時間 45分以上）

言語活動：

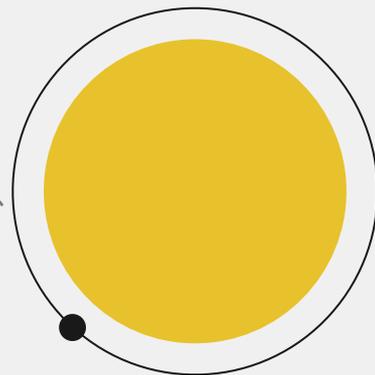
#### 3言語活動以上

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）・話すこと（発表）」、  
「書くこと」、科目名：会話、作文、聴解、読解、文字、文法、発音等

#### 生活文化理解

科目名：日本文化・日本事情等

出入国在留管理庁「生活・就労ガイドブック（各言語版）」を組み込む  
（生活分野はA1～B1）、レベル等により通訳等の配置可



# 「参照枠」活用コース

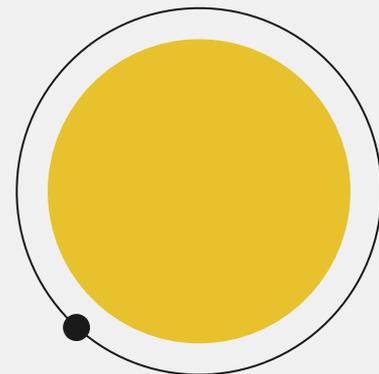
## カリキュラム・シラバス開発



### 【生活分野 必須参照資料（文化庁資料）】

- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について
- 文化審議会国語分科会（第80回）（令和4年3月8日）

資料3-4 地域における日本語教育の在り方について（審議経過報告） pp.32-64 「生活Can do一覧(令和元-2年作成)」【A1-B2】  
レベル



この他にも、関連領域における研究や取組など  
様々な資料を参照して取組を進めている



# 教師研修モデル開発及び実施

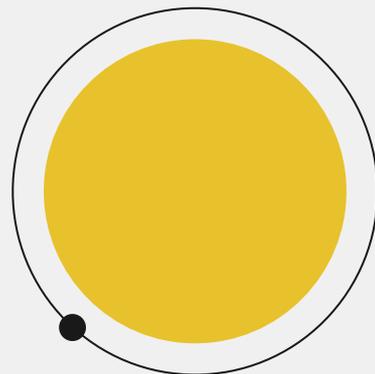
以下を含めた教師研修モデル開発及び実施

1. 参照枠の理解
2. レベル判定研修
3. Can doベースのカリキュラム作成研修

## 評価方法の開発

応募要項上は任意の取組

テスト、自己評価チェックリスト、パフォーマンスタスク、  
ルーブリック等の開発



# 生活分野のモデル開発 全体像

## 教育モデル開発検討会議

全体の方針・目標・運営を検討

カリキュラム・  
シラバス開発委員会

評価方法  
開発委員会

教師研修  
委員会

地域の日本語教育実施機関・組織  
国際交流協会 民間日本語学校

現場に応じて選択・  
利用可とするために  
意見聴取を行う

# 3つの委員会の分掌

01

## カリキュラム・ シラバス開発

生活Can do等を基盤とした  
シラバス及びカリキュラム  
を開発

02

## 評価方法開発

生活者の日本語熟達度を  
パフォーマンス評価によって  
捉えるための  
課題、評価観点、基準を開発

03

## 教師研修

生活者のニーズに応じて  
シラバス・カリキュラム  
設計を行う研修モデルを  
開発・実施

生活者も地域の日本語教育も多様  
現場の多様性に応じて利用できるモデルとは？



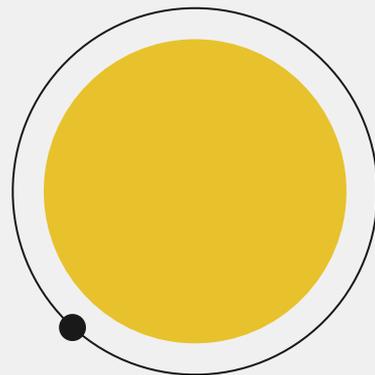
# スケジュール

## 令和4年度

- カリキュラム・シラバス、評価法、教師研修の開発を進める
- 年度末に教師研修試行・初年度成果検討会開催

## 令和5年度

- 令和4年度の活動を踏まえ、開発モデルを修正、完成を目指す
- シンポジウム開催等の形で成果を公開





ご清聴ありがとうございました



CREDITS: This presentation template was created by **Slidesgo**, and includes icons by **Flaticon**, and infographics & images by **Freepik**

